

## 只見 袖沢南沢岩穴沢左俣～白石スラブ (仮称)

飯田

【日時】 2013年10月13日(日)～14日(月)

【メンバー】 L飯田、手嶋、栗原、矢野、山川

【プロローグはカン違いと共に. . .】

9月21日から23日にかけて大津岐川の滝沢シロウ沢遡行～中門沢金山沢下降～下ノ沢右俣遡行～片貝沢下降～コオリ沢遡行～一ノ沢倉ドノ沢右俣下降という、白沢岳の周辺を巡る沢旅に行ってきた。

中門沢の下ノ沢から片貝沢へ乗越す時に白いスラブが見えて、「おお、貝の岨スラブだ！」と登攀意欲が湧いてきたが、ルートを欲張ったせいか片貝の池までたどり着けず、貝の岨スラブはおあずけになってしまい、手前のコオリ沢を遡行して、大津岐川一ノ沢へ下降するというルートを取った。

コオリ沢の何百メートルも続くナメから振り返ると、昨日の真っ白いスラブが見えた。



てっきり貝の岨スラブだと思っている私たちは「あ～ 貝の岨スラブ登りたかったなあ」と、がっかりしていたら、手嶋さんが「方向が違うんじゃない、ここからは貝の岨は見えないはずだよ」と言った。え～っ！じゃああのスラブは何だ？と地図を見ると、確かに片貝池の真北に岩マークが見える。

←【コオリ沢から遠望】

家に帰ってから「只見 スラブ」とか「白石沢 スラブ」などと手を替え品を替え、いろいろと検索してみても、あのスラブは出てこない。

早速、手嶋さんからは袖沢南沢の本沢をアプローチにした1泊2日の案が送られてきたが、「また、たどり着けないと今度こそ笑いものになってしまいますよ」と岩穴沢左俣左沢からの縮小したアプローチを提案したりしていたものの、行くのは来年だろうと考えていたが、何気なく見たグーグルアースに度肝を抜かれた。

もし実際に見ていなかったら、雲か雪だと勘違いしたかも知れないほど、大きな真っ白いスラブが広がっていたのだ。

(グーグルアースか航空写真で「奥只見湖」で検索すると右下にあります)

居ても立ってもいられなくなった私は、手嶋さんに「10月の連休に行っちゃいましょう」と、ちょっと無理を言って今回の山行を計画した。

手嶋さんにも無理を言ったが、家庭の事情で行けなかった利香さん、他の山行にエントリーしていた大濱さんには、一緒に行けなくて申し訳ないことをしました。

前置きが長くなりましたが、ここからが山行記録です。

土曜日に谷川の檜又谷に入っていた手嶋さんと栗原さんは先に奥只見湖まで入っていて、矢野さん、山川さん、私は本庄早稲田駅で待ち合わせをし関越で奥只見湖に向かった。手嶋さんたちと合流し、軽く入山祝いをしたあと就寝。

13日(日) 朝、目を覚ますと雨

小雨降る中、スロープカーの軒先を借りて準備をし、雨の止み間を見て出発。

かなり崩壊している南沢林道を2時間半ほど歩いて岩穴沢出合に到着。

まだ、雨がしとしと降っていたが雨具を着るほどではない。

岩穴沢はナメが発達していて登っていて楽しい。

一ヶ所ツルツルの滝があり左岸側を高巻く。

何もないだろうと思っていたが、1000m付近に高度差で100mほどの滝が現れる。



【岩穴沢はこんな感じで】↑

【岩穴沢左俣左沢大滝】→  
(見た目ほど簡単ではない)



大滝を越えると難しいところは無く、ナメが稜線近くまで続いていた。稜線に上がって地図を確認し、白石沢出合へ降りている尾根を下降路に取る。



一ヶ所、崩壊して細くなった部分があり緊張するが、藪もそれほどうるさくなく降りやすい尾根だった。

スラブを正面から見ると、傾斜が強く見えて、「もし、登れなかったらどうしよう？ この尾根登り返すしか無いかな？」などと不安になってくる。

← 【 下降した尾根から見たスラブ 】

尾根の途中から、灌木帯をうまく使って白石沢の780m付近に降り、笹藪を均してテントを張り一夜の宿とした。

沢筋には幸い流木も豊富で焚き火も堪能することができた。

14日(月) 朝、目を覚ますと満天の星空

スラブの登攀に何時間かかるかわからないので、早めの出発。

白石沢は、1ヶ所大岩が沢を塞いでいたので左岸側を高巻いた他は、特に難しいところはなく40分ほどで、スラブの基部着。

傾斜は見たほどこきつくなく、どうにか登れそうでホッとする。



1段目を登るとスラブが全て見渡せるようになる。

スゴイ！思った以上の大きさだ！

真っ白いスラブが360度に広がっているように感じる(ちょっと大げさ)

遠目ではわからなかったが、スラブは大きく分けて3段になっていた。

← 【 スラブ1段目 】

(アクアステルスがバッチリ！)

1段目を登ったところで見渡すと中央(栗原・矢野・山川)と左(手嶋・飯田)に傾斜のゆるい部分があり、その2本を登ることにする。

左ルートは、ところどころ手をつく程度の傾斜で難なく稜線に到着。

反対側をみると、こちらにもスラブが広がっていた。

中央ルートは一ヶ所お助けを出したそうだが、問題なく登れたようだ。



手嶋さんと私は、ナイフエッジ状の尾根を慎重に灌木帯まで進み、栗原Pと合流し、1時間ほど藪を漕いで沢の下降点に到着した。

←【1段目のテラスで記念撮影】  
(写真の真中が左ルート)

岩穴沢左俣右沢は、左沢のような大滝もなく下降に適した沢で、2時間弱で南沢林道の橋に着くことができた。

林道を歩いていたら、女の子がひとりでスマホをいじっているという、なんともシニールな場面に出くわしました。(祖父母とキノコ狩りに来ていたみたいです)

【エピローグは期待をこめて．．．】

下山した後、手嶋さんが、浪漫山房、わらじの仲間、会津山岳会他、各方面の豪華な面々に白石沢スラブのことを尋ねてくれた。

「存在自体知らなかった」「スラブのことは知っていたらしいが、登ったことは無いし、記録を見たこともない」とのこと。

お～！これは初登攀か～！！と興奮してきところに、随分昔、わらじの仲間の元会員の方が、「貝ノ岨の対岸に隠れた大スラブがある」と語っていて、なんと、2回チャーター船でアプローチをして、1回目は偵察、そして2度目は登るつもりで行ったが実際は登らなかったという情報を得た。

なぜ登らなかったのかと言うと．．．「傾斜が緩かったから」。ええっ、そんな．．．

興奮も少し冷めた手嶋さんと私は、この話を聞いて「基部まで行って傾斜が緩いから登らなかった」という人がいて「初登攀」はおこがましい「未踏」くらいにしようということになりました。もちろん、他に誰かが登っているかもしれません。未踏を証明するのは不可能です。でも「無知の未知」で十分。「何が出てくるかわからない」楽しさ「どう対処するのか」の面白さ。「資料を見て登る沢では味わえない」充実さを前回と今回の沢で堪能させていただきました。ホント楽しかった。

お付き合いしてくれた皆さん、ありがとうございました。

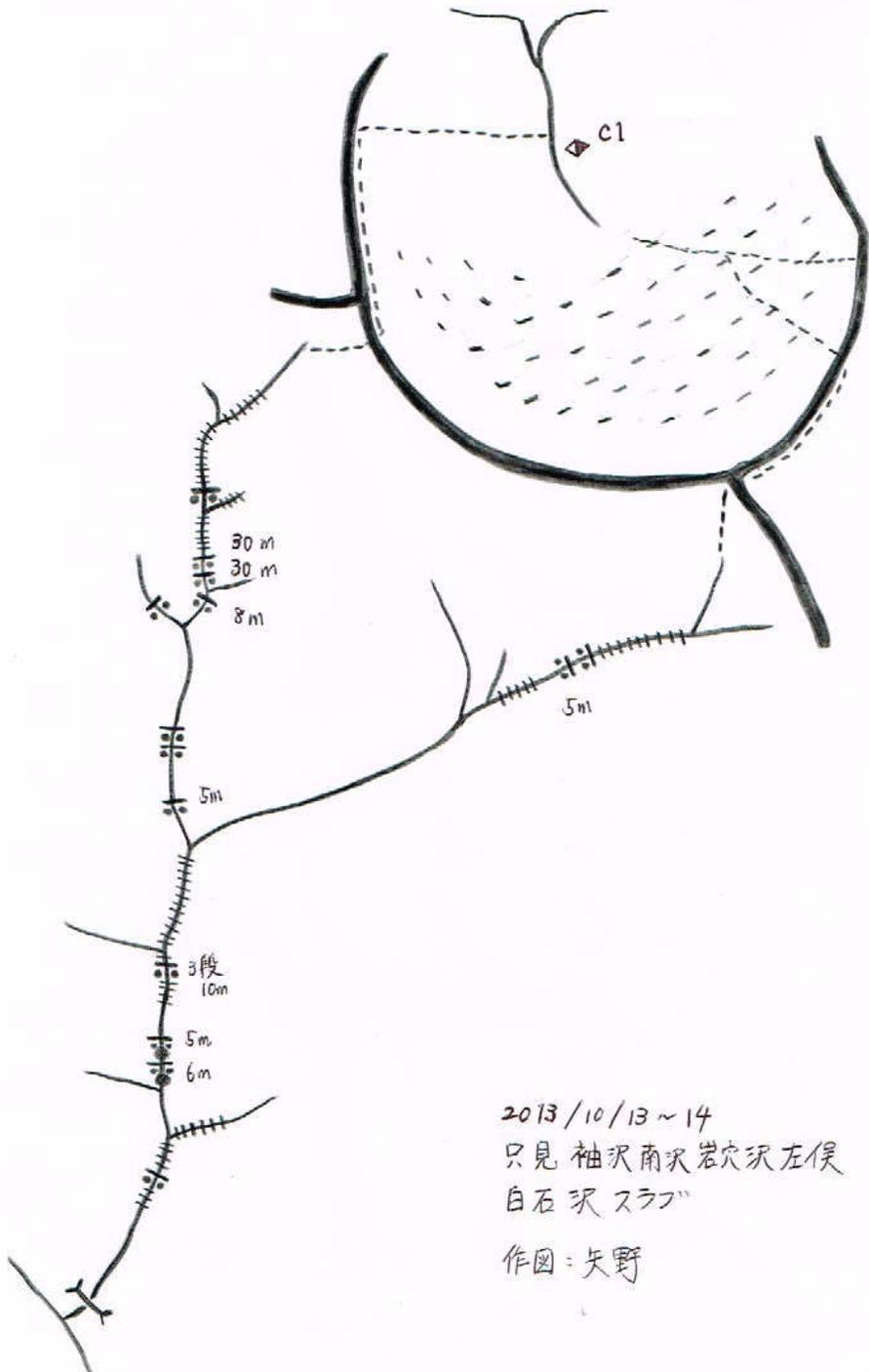
【グレード】総合で3級（スラブで一番緩いルートを採った場合）

【行程】10/13 奥只見ダム(07:40)～岩穴沢出合(10:20)～稜線(13:30)～BP(15:15)

6/16 BP(06:20)～スラブ登攀終了(08:15)～下降地点(09:00/20)～

岩穴沢出合(11:05/25)～奥只見ダム(13:40)

【地図】高幽山



2013/10/13~14  
只見 袖沢南次岩穴沢左俣  
白石沢スラブ  
作図: 矢野